寅
138
6

南路志卷八

（中）

圖國第五ノ一

帝國圖書館
寅
函 寅
架 六
號 二ノ八
冊
類
門

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南路志』 請求記号 寅-6

ガラス使用

WE2162/23

南路志

卷八

闔國第五之一目錄

香

我美郡

夜須村 下省村字

夜須川

德善

山南

東川

西川

岩見

手結 以下夜須之内

岸本 以下大忍庄之内

玉子

山北

久江

逆川

土居 以下香宗之内

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

WB2162/23

南路志

○香我美郡

夜須村 下省村字

夜須川

徳善山南

東川

西川

岩貝

于結 以下夜須之内

岸本 以下大忍庄之内

玉子

山北

久江

逆川

土居 以下香宗之内

昭和十三、十一、二十
香我美郡役所
カ

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用　挟み込み物

赤岡
中之村
中山田
冨家
吉原
前ノ濵
上田村（ミ）
上岡（以下物部ノ内）
堀ノ内（以下岩村ノ内）
京田（キヤウデン）
須留田
新宮
兎田（ナイダ）
古川
久枝（以上十一村香宗）
下嶋
物部
立田
藏福（ザウフク）
福田（フクダ）

金地
招本
神通寺（以上九村岩村）
母代寺（以下深淵郷之内）
東佐古
戸枝嶋
包末
徳松（トクマツ）
深淵
西佐古
大谷

南路志圖國第五之一目録終

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

闔國第五之一

何龍撰

○香我美郡（順和名抄香美郡）

神社佛閣諸堂名跡古城古人并證歌證文悉載于此

地高三万千二百七十二石一斗三升五合

村數百二十三寛永十九年改

夜須村（和名抄夜須）　地千九百三十四石一斗七升

八幡宮　西山

揀札

奉上賞八幡宮
舞殿大旦那疏

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

守同代官勝
部新助大公鍛
冶神左門大公
番匠野嶋惣左
工門本頼島井
次郎太夫并産
方勘助
慶長十五年霜月
一日
○奉上菅八幡
宮御神殿大且
那松平土左守
源忠義并代官
勝部新助大工
鍛冶神左工門
大工番匠野島
惣左工門本頼
産方勘助諸衆
敬白慶長十七年
庚則吉日
宝物
八幡大菩薩木
像御長一尺二寸
五位ノ束帯也
○左脇立阿弥
陀木像長六寸
二分右脇立薬
師長六寸五分
○御劔一腰
無名長サ
鋒先八寸
○御太刀一振
無名渋谷勘藏
長私枯定
ト日利○鉾一本
無名。神輿。
金幣二振。鏡
五面八寸ヨリ五
寸迄。金燈篭
五。大鈴一口
銘曰鋳文丙辰
年西山佐
予方清
守造。鞍一脊
古来ヨリ在
木ノ神具トス
○三十六哥仙画
馬三十枚画工墨
跡不和
古来ノ如
ト見。神楽
大鼓一掛口ノ
渡一尺二寸銘
曰明暦四戊年
正月吉日
張脊覚文二八月吉
永禄七酉月吉日
○弓四張。矢四
具。鳥毛二本
○筆具一帙倉古
京筆畢由或人

霜月廿二日

壱俵　姫倉　弥六殿
壱俵　福法師九殿
壱俵　姫太吉兵衛殿
壱俵　若神子右馬助殿
壱俵　山崎宗兵衛殿
壱俵　小沢宗兵衛殿
壱俵　森宗兵衛殿
壱俵　小村武兵衛殿
壱俵　小松右京亮殿
壱俵　清本新左衛門殿
壱俵　定沢宗秀入殿
壱俵　次郎九殿
壱俵　弥六殿
壱俵　右京亮殿
壱俵　文左衛門殿
壱俵　久井　岩村徳兵衛殿
壱俵　定沢宗秀入殿

○南路志

○南路志

寅礼二月初卯百日有奈年中八度神主部古文社人四
人宿賦人
宮床東西六拾間南北六拾三間馬場東西八間南北百間
余社頭弐反一畝歩公収入図ニ若狭守元親時代八
町八反神田北内ニ社僧社人不断之由弐反十四代
八幡的田ト地検帳ニ有
棟札　天正二年戌十二月上菅八幡御社檀一宇大檀
那秦元親同千雄丸惣奉行　下不見
天正九年ミのとの
土佐夜須庄八幡宮舞殿横殿大小　勧進納帳

壱斗　　反ヶ溜

壱斗　　吉田松助反

壱斗弐升　八木左ヱ助

壱俵　　廣瀬七郎ヶ屋反

壱俵　　濱田新ヶ屋

壱俵　　千徳反

壱斗　白田村新右ヱ門

壱俵　　香宗我部助ヶ子

手結分

百廿束　濱口与三右ヱ門

壱斗　　一和尚

壱斗弐升　沢田助ヶ屋反

壱斗　中村与一左ヱ門

壱俵　　同又七郎反

壱斗　与一左ヱ門

壱俵　吉田神七郎

壱ー同　同助右ヱ門

廿六束　内方

弐百四束　桑名助左ヱ門

以上六百束分

壱俵　濱口与右ヱ門

十束　同　林ヱ門

又俵　同　与三ヱ門

弐升　同　次兵ヱ門

八十四束　同　清ヶ来

三俵八升同ヶ俵ヶ来

又弁同　実右ヱ門

弐升　同　次兵ヱ門

武内神　右本社祝

若宮　同

薬師堂　西山八幡庄　昔神宮寺ト云寺有其本ヶ地

長三尺五寸往古八座長三尺四躰弐尺一躰ヶ人ヶ三躰

今日八月十二日ヶ当観音寺

国立国会図書館　タイトル『南路志』 請求記号 寅-6

ガラス使用

ヲ千神　清若

昔八幡勧請之節式不之候宮之内ニ有之
と云社床旧代毎度祭田古九代九月九日五月五日祭礼
検帳ニ有

野地神　オウタ

祭禮八月十三日神主勤古吏ハ当社ハ
昔ハ社人之屋敷有之ニ今ハ不有
代五歩地検帳ニ有神田職事田井垣田荒司田と有又
本田三段代氏子ハ寄之社地七代
子持楠神　宮田之右

祭礼八月十三日神主権吏太宮田安林ニ内ニ昔ハ本
迎り六園斗ニ楠木ニ繁茂年中ハ産船ニ皆葉ニ而用ひ
一七日ニ昔伐ニ不申候ニ依ニ而船ニ乗ル事楠神
ニ神ニ祭ニ云伝ニ子持楠と唱ニ由小児抱生ニ者ハ祈
願ニ寄ニ而ニ云

地蔵堂　ヲミヲ　會日十一月中ノ辰神主勤吉吏

伝云屋ニヲミヲ山ニ住伝ニ而祭ニ云女人禁制
十二所権現　十二所　祭礼九月十二日神主権吉吏
社頭四段六代四歩　伝地権現ニ寄ニ及八代四歩九月
九日十二所権現十二人ニ社人来係ニ寄社地代ニ寄

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

棟札
奉造立大将軍
社一宇本願田
村久右ヱ門大工
野嶌太郎左衛
尉寄之左ヱ門
寛永廿一甲申
年十二月六日

祇苔ハ小キ古手洗シ渕有今も此池し奥ハ不詳ト云ヘリ

天神　ニヤウリン　祭ハ九月廿五日神主拵之事

社地四代地拵帳ニ記及十五代迄天神社跡と有

馬頭観音　菩提　堂床記代迄

大将軍　大荒神　祭礼正九月九日神主勤之事

昔ヽ社床ハ辰巳ノ方コヤガ森と云ヒ有ル由ニ而馬人或ハ沖ヽ迄ノ取有ヽ物有ヽ今ハ無ヒ

歩地中ニ所社地之内地拵帳ニ壱反二十六代記迄

飢と有

弁天　フロウカ谷　祭九月吉日菩提池ノ上ニ有今社無シ

社床六代

阿弥陀　祇苔　堂床壱代ニ記迄

伊勢ヶ岡　宮ノ床　祭礼九月十六日神主勤之事　神田四十歩代

阿弥陀堂　道蓮寺屋敷長記天六寸堂床十五代記

古ハ道蓮寺有迹物ヲ残ス而

地殿権現　千トノ　祭礼九月十六日神主拵之事社地壱代地

検地ニ千トノ宮分壱代壱歩ノ

八王子権現　八王子　山王拵現之木像有神名不知神田五反

十弐代七歩地拵帳ニ悪王修霊田と有社床七十間

横六尺

地蔵堂　舎日十一月廿四日堂床記間四方

仁井田神宝
白石一顆（一尺
九寸
九鏡 七面
小鉾 二本
棟札奉造立
新井田宮一宇
大且那吉田神
七所 宝年同
千楠丸権大僧
都尭憲権律
師宥尊大工親
勝同藤十郎
同太郎左ヱ門
鍛冶立郎左ヱ
門小使七郎兵
衛天正十七年
五月十日

仁井田権現　仁井田　奈礼　正九中ノ申　神主橋古丈　昔ハ
八王子社　婁ヒホヘ彩色ラ由　社既破　後代地形時ヽ有社
床長四尺横三尺
當途山南光院観音寺　真言宗　五代山末
本尊十一面観音　天照大神　春日大明神
八幡大神　三ノ城　奈礼九月十五日神主橋古丈　昔夜須七
郎兵衛尉ラ時勧請ラ由　今社廟ラ大松一本有城家ヤ立家
ノ松ラ云ヽ
古城　三ノ城徙古夜須七郎行家居之
東鑑曰　文治三年丁未三月十日壬子　土佐國住人夜須七郎
行家與梶原平三景時　遂對問二品直ニ令決断之給　行家
檀浦合戦之時生虜平家家人周防國住人岩國二郎兼秀
同次郎兼末等召進畢募其功可被行賞之由日来言上之
處景時申云彼合戦之頃全無下称夜須ト者上件ノ兼秀等
者自然帰降之輩也經年序後行家廻奸曲申子細之
由訖申之而行家彼時者與春日部兵衛尉令乗同船
之間召春日部被尋問之處申勿論之旨已為分明
證人仍可被加賞之趣被仰含行家景時依詮訴之
科可作鎌倉中ノ道路云々　兼奉行之
建久元年庚戌七月十一日癸亥　土佐國住人夜須七郎行

家可（作宗）安堵本領之旨賜御下文是土左冠者被討取給
于時不惜身命討取怨敵蓮池権守以降度々有勲功
尼森城秦氏之時吉田右近居之
宗圓城宗圓八郎左衛門尉居之
或云吉田大備後八上荻坂ニ丈松尼ヶ森初鐘ヶ
森四ヶ城を構へ嫡子伊賀助八和食郷を領し馬
ノ上ミ立城ス
聖観音堂 長五寸八分 長八寸會日九月十八日
八幡大神 山ノトウ 參礼八月十五日神主松左近
立城ノ時勧請之由

意寧山福龍院常住寺 真言宗
本尊
荒神 上荻原（コウトウ） 神主宗兼近江
城ノ八幡 川村城
観音堂 長五寸 十一面観音長一尺弐寸 厨子二間四面
十八日
神母大明神（モリトシ）
山王権現
池ノ神 若田
八幡御旅宮 虚空蔵堂ハ弘幸時旅社ニ社ハ比検帳

廿九代

實盛塚　竹久セイ本書由石納

三躰地藏　井出ニ　古一尺堂床六代會日九月朔四日

宝田神社　井出口　別当古朱ち

御峯権現　井出口

三躰妙見　井出口

主馬宮　神主宗兵衛別当観音寺

八幡御旅宮　撰渓村　アて子　小社　祭八月十五日昔ハ大松一本有高サ

八間四尺本圍三抱末四方へ枝葉へ十八間東西へ十七間

地ゟ高サ又二尺ゟ枝ゟ枝ゟ

豊房公依寄有し

松之宝永四年十月地震ゟ高渓へ流寄今ゟ砂ニ埋有

ゟ由又子年ゟ多松ゟ植々の苔松ゟ

豊房公

来ゟれハ旅ゟつれゟ忘ゟれて有ゟしハやゟの笠松

岩ゟゟやゟの川ゟ高ゟ里多ゟ

恵美須宮　撰渓　西宮大明神

社子　大黒　福禄寿　ゟ神ゟ　ほゟ天寺

板葺社地高田

棟札奉新造立恵美須社宝永六己丑年九月三日　小庄村屋

七面大工野嶋伊八郎

惣氏子敬白

于詰村（夜次之内）　地四十五石二斗八升

于詰浦古名佛崎　東鏡曰養和二年壬寅九月廿五日癸巳土左冠者希義者武衛弟也母季規女去永暦元年依故左典厩縁坐配流于當國久良庄零近年武衛於當國擧義兵給之間称有合力疑可誅希義由平家加下知仍故小松内府家人蓮池權守家綱平田太郎俊遠（各當國住人）為顕功襲希義日來與夜須七郎行家（土州住人）依有約諾之旨辞分良城向夜須庄于時家綱俊遠等追到于吾川郡年越山誅希義訖行家者又家綱等圍希義之由聞及之為相扶件ノ一族等馳向之處於野宮邊希義被討之由聞空以帰去而家綱等又欲討行家之間粧船一族相乗之自佛崎海上逃亡家綱等馳到于其船津先為度行家之船有可談合事称可来臨由行家令察家綱等造意斬二人使者首掉船趣紀伊國

寛政三年記録云地三拾石新田畑于結山御留山ノ内浦人為渡世底明地。浦境岸本脇ヶ磯ヨリ于結山納家ヶ谷限三十五丁斗。家高貳百拾八軒。人高千五拾六人内五百二十人男五百三十六人女。船五十七艘内市艇四小船五生簀漕船四釣小漁船四八太手船十二大魚網手船四餌取船十一。四張メ拾張。海境東ハ和食送番所東ヲ于カケノ前西ハ物部ノ川口限子ヲ結山内西ノ谷横渓ノ仲下ノ集ノフチ長谷折沖ニ有

一地方沖合波石

馬脊波石（于結小ノ磯ニ有）

鰹波石（漆口ニ有）　ゴロ〳〵波石（于結湾ニ有）

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

鯨波石　大サ一二有　平四帖波石　手結峯　浦戸波石　手結
脩二有　子波石　口不　カリて夕波石　口不　鍋ツナキ口不
日向波石口不　女夫波石　口不
渡磯　手結山ニ釣家ニ有　此所ニテ手蛸ヲ取
ヌルウド但大手結ニ内ニ有迎舩或艘斗掛り場ハ不浪
葬シ処多ヌルウド、喝ル由
港一ヶ所　南北六十間　東西長二十七間
一港ノ内北面ヲ夕処ハ十ヲ代リ
一円深サ満潮三尺ヲ寸汁但古ヲ一丈ル有之変右ニ通
干潮ニ潮ヲシ

一港深サ三間但港海底ヨリ石垣上ヲ号迄
一港口ヲ石垣長百七拾七間斗
右湊ヲ以ヲ赤潟成シ波ヲ多漾松四ヲ艘入十程シ泊ヲ有
シ処郡中ノ内　夜ハ見ヲシ止ヲ夢告ヲ仰ヲ明暦元未年成就仕
由右ハ善請中小倉六右衛門太浦長安寺ヲ以ヲ話由未年ヲ寛政
三亥年迄百三十七年
恵美須　波戸
天正年中地形ヲ指壱代ヲ歩ヲ夫ヲ差職ト有
円海山慈福院長楽寺　天台宗陽貴山末
本尊薬師　行基作　寺領十石

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

薬師堂鰐口寛永元甲申歳月日

薬師堂　額　屋代元久筆　延宝八年

元禄年中修補ス　破損後内木札ニ写記如左

永久四年歳次丙申二月五日己巳奉再興

妻為父母菩提并自他法界佛子僧妙線

山王権現　カヽノ手

寛永ニ頃大猿来穀ヲ盗ム　ヲ彫付ケ柔ニ由ノ

海堂舎　カヽノ手　宮床漆岩ノ上

聖観音堂

八大龍王　法花経

夷　　梵字

真行寺　一向宗西派

本尊阿弥陀

根来専弐坊第平十郎墓　手結山

紀州根来寺伝教院配下ニ而代官ニより金壱両ニ限ル

由ニて天正十九年林村百姓ニ而ハ

ニ付連判ニ而ハ

ニ而ハ

ニ而ハ

遠て被合せ二お三お折そと云へしが彼士二つ之を取
る物ゝ者ども上を下へと周章て周章ふ而也手十帝等ら我幸
ふお後たお也を切て思れハ嘯のまと於ゐ如く逃ゝふ
兄法帝と一お手成ふんと和合せさして引而ふお役新太
出ゐとを法ふの矢統ふやよふ引く放つ矢平十帝ゝ胴
中ふ射通し後ふふおへ七八寸をふふ射おしなくさし
ふの勇者ふれとも大事の多ふれハうんと斗也究竟そ
岩の上ふ倒れふる

一 御高札場

一 御米蔵 三間半ゝ拾弐間

一 御分一家 弐間半ゝ六間半 茅葺

一 火之番所 多結山ふ有ゝ

一多結山ふ新家ゝ来ゝ上人ふ皇ゝ中知ふゝ但元屋ゝ此今良ゝ
御献上人稼会ゝやふゝ此新ふ新家稼念ふゝ
由等忘国師ゝ中知ふ御ふ家船スゝ
一 佛ヶ崎
但多法浦前の名ゝ由治義年中頃七帝新家稼念ふゝ
ゝ射心浦ふ家船ゝと中佛ゝ佛ヶ崎ゝ名ハ長生ふの薬坊ふ
法浦ゝ南面屋ふゝ有ゝ新ふ船号ゝ中佛ゝ故又多法ゝ中名ハ当
浦ゝ沖合ふ見ふ新浦の形ふゝ多法ふふ新ふ名ゝ
号ゝ中由
一 往古通法寺旦通寺利益寺有ゝ由但新頃村地検帳ゝ利益ふ

古申一約上人再興し雲坂本当阿弥陀如来光年右手小
首ニ而連摩ニ木像一躰陸軟ニ多結浦観音堂有ニ
一棟梁五十席 古墳
伝秦氏ニ而財紀ハ根来寺ニ写ニ武法ヲ和合ニ因而ニ村ハ
領主ニ而年十席ハ当武法ヲ多結浦ニ願ニ而出
シ帰ル家ニ多結山ニ而ニ谷ニ十席ニ手結ニ而
七財穀ヲ墓ニ納ヲ有ニ年十席雲ヲ新家ニ者ニ
毎年盆中ニ多結浦長ニ而ニ祭ル
一先年法巡見上使ヲ尋ニ多結浦ニ而ニ村ニ
坊ヲ有ニ古ヲ坊ヲ八和切ニ村ニ而ニ尾ヶ南小坂ニ而ニ

十小坂ニ而ニ岸陽ニ狭砂有ニ
一塩釜拾四釜 古ヲ貢物ニ而ニ
夜須川村 夜須之内 地四十五石二斗八升
十二町権現 新井田 氏孔九月十二
庵ニ代 古田 地ニ板張ニ云ヲ文四十八代新井田ニ神田ニ九ニ
宮ニ并ニ而ヲ神田ニ九月中ノ申ノ日十二人ニ宮人ニ練物ヲ
又狸狸ヲ舞
棟札奉造立新井田宮一宇ヲ于時天正十ヲ年五月十一日大旦
那吉田神七郎重年同十楠九権大僧都尭憲権律師

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

脊斎小使七郎兵衛同助衛門鍛冶五郎左衛門大工親
勝同藤十郎同太郎左衛門
龍王宮　ヤコノミヤ　祭礼九月十日神主清古吏別当常泉但社五ヶ四方棟数ニ間と
杉根ヽ云ハ代ヤコノミヤ常泉但社五ヶ四方棟数ニ間と
云　来六年元禄十四年ニ水失ス棟札奉造立龍王宮一宇成就處天正八年庚申極月吉日
大旦那吉田左衛門助永願次衛門大工三左ヱ門不見鍛冶
太郎左
地蔵堂　梅木　地蔵長六寸
牛頭天王　西天王　祭礼九月十二日神主清古吏別当観音吉地
杉根ヽ云ヒ及西天王ヲ代東天王
山王権現　宝殿吉　祭礼九月十三日社家二代地杉根ヽ云社
領ヲ及杉ヽ代ヲ歩ス
月林寺跡　天竜山永吉寺退転
観音堂　月桂吉　西観音長一尺堂家共ヲ代会日九月十八日
天王　土居　祭礼九月十二日天王ヲ
ヒ中ヽ人ヒ民神ヲヲ少孫ヒヒ多シ
古城　光忠大部光國居之
八幡宮　祭九月十六日
阿弥陀堂　アミダ尼ヲ堂庵二代會日四月十又日

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

荒神　フケ谷　祭礼九月廿八日　神主清支社家四名ノ内
社伝昔代大化二年建産ト云
若宮　祭礼九月廿八日　宮床ノ代
岸本村　大忍之庄　地百二石一斗九舛
古名岸浦

沖ノ風呂の浦ヶ礼ノ当ル松ノ名ノ
衣笠内大臣

○右記録ニ地三百五拾弐石八斗三舛内　百五石七斗一舛六合　本田砂畠
○家高百八十五軒　弐百四十七石一斗一舛四合　新田
○人高千三百七十人内　七百五拾人男　六百十九人女
○浦境夜須村境迄東西十三丁三十一間南北四丁。船十八艘内市艘一小船四十五漁船十地挽網船十一。地挽網十一張。古城姫倉左京居之

常楽寺鐘延宝二寅年八月鋳之

王子権現旅宮　新町　当村氏神八王子権現之
恵美須　新町　社地四代
龍神　祝ノ森
神母　神木谷
月見山　此山ヨリ海迄小高ニシテ好ケ
沖門院の辻幸ありし好ケ
の夜毎ニ頂ニ幸ありて月の海も一入成ニ依テ昔土
しとやら云ハ皇后の御名ニ月見山ト改ラレシヨリ名有
月見山多聞院常楽寺　真言宗立筆山末
本尊毘沙門

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

古城　姫倉右京居之　或作玄蕃

上人塚　昔出雲玉八百比丘尼という老尼有之上人と
うやい岸本に住ける倶ま和ら家うて沖へおけ
る舟を大浪ふく和ら舟を覆を老尼ハ活ながら蛇の如くに
里の方へ和ら上人ハ溺れ死ふをいたわく葬し
と云

徳善村　大忍之庄　地三百三十石九斗五升

八幡宮　俗号　祭礼八月十六日　祭当常宗ち神主川村
石見社家市代田地十八代享保十三年地下ふ家を地拾
ふ云神領廿石社領廿石

阿弥陀堂　安芸吉原賀堂ふ家長十百横六百舎日九月
十五日

古城　石谷刑部卿勇工文将監居之

高良権現　宮ノ前

天王宮　天王

王子村　大忍之庄　和名抄大忍　於保左比　地千四百十一石八斗

續日本紀曰天平宝字八年十月壬申廃帝遷御淡路國此
時池田親王為傍王配土佐國此王子村彼舊跡也

宇田松原　或云王子村苑田ふ有字ふ鬼田有ふ松原ハ
岩浦月見山ふり赤岩ふの松原地ふ之ふ土左日記ふ

その松のうえにくくりつけ置き
法事等執行に詣でる人々
永く忘れざるため
是わざわざ松のうれを
多世のともにもちひ給ふ
或曰在于結浦之與名守土蓋是乎又称奴留守土昔有
並松今亡
若一王子　王子祭礼四月九日
社人法吉吏別当西光寺住古村ゟ永添上人熊野より下向ニ而
背ニ負来り此村ゟ勧請し由足利尊氏公軍ニ出陣

文禄戊癸己年十二月廿八日合大忍若一王子
御殿再興大旦那長曽我部秦元親本願惠日寺快隆勸
進者大法師快尊
若一山求聞持院西光寺 真言宗
本尊
座王權現 ヌタル 紊孔 九月十九日 社地八百ゝ 棟四間 別當西
光寺
八幡宮 松尾 紊八月十五日 社家八間 棟四百
野神 天王 紊孔九月九日 御當 幸樂ヲ 社地六間 棟四
間

觀音堂 川名 十一面觀音堂 家十五代會日六月十八日
大將軍 黒土 紊九月九日 別當幸樂寺 社地十四間ゝ
棟七百
神母 苅谷 紊九月廿日 別當大願寺 社地四間ゝ 棟
四間
古城 苅谷 河谷越後守居之
八幡宮 苅谷古城 紊八月十五日 社地三間 棟九尺 別當
大願寺
辨財天 紊九月三日 社地十間 棟五間
金銀山法光院大願寺 法華宗妙國寺末

本尊三宝日蓮大士

薬師堂　ムク屋敷　堂床弐間四方金
弊口銘　奉掛弊口香宗我部卿端王子宝前
應永廿九年壬寅二月廿八日比丘祐舜敬白

大将軍　ウナ田　祭礼九月十九日別當西光寺社地八間ニ横
六間

神母　野口　祭九月十三日お旅西光寺宮床弐畳横弐間

八幡　川石　祭礼八月十四日お旅大野寺社地七間ニ
横七間

地蔵堂　中野屋敷　堂床廿三代

天神　中野
牛王権現　牛王　祭九月十九日別當西光寺社地二間
横四間

古城　國吉五左衛門代々居之
山南村　大忍之庄　地千三百三十八石九斗七合

諏訪大明神　久保田　祭礼九月十九日本社五尺四面葺屋
八尺四面流屋九尺ニ二間　修造者社家廿代

八王子権現　年祭礼八月十四日お旅地元院宮床十代

薬師堂　川内　菩提光寺床ニ由會日九月十二日地元
院支配

国立国会図書館　タイトル『南路志』 請求記号 寅-6
ガラス使用

蛇田大明神　大岩　祭礼九月廿日　祭礼地藏院宮座天代
古儀
窪田　中神兵衛居之
堀内　岩神筑前守居之
岡　岩神七郎兵衛居之
堀内東北　入交藏人居之或曰田中喜助
十万　十万美作守居之
東十万　長谷川弾正居之
外山　石田鳴呼右衛門居之
勢至観音堂　久保田　會日九月廿八日　昔浜戸寺本尊

し由也
新宮大明神　呂　祭礼九月十八日　別当地藏院宮座壱代
観音堂　呂　十一面観音　會日三月十八日　昔施餓鬼
寺座し由
地藏堂　堀内　會日三月廿四日　地藏院持　昔金仙寺
座し由
河内山徳化寺地藏院　真言宗
木尊
天神宮　呂　祭礼九月十三日　別当地藏院社座立代
観音堂　十方　馬臥観音　會日九月十七日　昔浄楽寺

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

海し由

焼御前　十万　祭九月十二日

地蔵堂　大石　昔金福寺海し由

西方権現　川内　祭礼八月十三日宮床二代勾地義院

辯才天　定山

薬師堂　坂内　昔定林寺堂床し由

阿弥陀堂　坂内　會日九月十五日堂床四代昔安養寺

海し由

阿弥陀薬師堂　呂　堂床四代會日九月十五日昔安養寺堂床

し由

八幡宮　内呂

毘沙門　窪田　昔原菴し海し由

薬師堂　呂　昔恵楽寺堂床一代

神母大明神

棟札勝手大明神造營御親殿一宇天正十五丁亥　季三月吉日

大檀那源三郎左衛門殿休栄同次郎五郎本願太郎左衛門同

祖母敬白別當永泉神主宗圓清兵衛大工三郎兵衛

桑氏録云山南村庄氏久多郎ノ云山南村惣ノ内住人岩神

築前守名知行五百石ニテ居城ハ為久ノ城又同村ムバダケ

ノ城ニ土居ヲ築テ住居ス

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

山北村　大忍之庄　地千百二十二石三升七合

浅上王子　上ノ王子　祭礼九月九日刑当恵日寺金水寺神主田村森之丞能登権現勧請年歴不詳一間四方葺屋九尺四方棟札有之間古　俗ニ山梨権作事ニ延享元子年北下引文政社殿有之村ニ段新田享保十三申年西方附社北十五代

棟札　天文三年　甲午三月十二日大旦那阿閣梨快珠

永禄十二年　己巳霜月廿八日大旦那長曽我部元親同親綱西別役七郎兵衛尉勝久國恒新兵衛尉忠勝

豊敷公御誕生屋敷跡

恵日寺鄂口
大日本國六州
香我美郡大忍
山北村恵日寺
文亀三年三月
廿一日権大僧都
快月

山王宮　手箱寺　社地昔ノ平等寺跡ニ寺退転年歴不知

釈迦堂　會日二月十八日堂庵一代年等ニ寺ニ有之由

十仏也

石清水山観足院恵日寺　真言宗五臺山末

本尊　寺領三石

山王権現　當寺最初勧請之由天正年中北板牧有

八幡宮　ヲムロ　社地二代

薬師堂　會日九月八日昔釜谷坂本ニ有之由堂庵弐代引堂庵ニ有之ニ退転ニ付而今ハ

山王　生福寺　社地二代昔生福寺ニ寺有退転

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

地蔵堂　寺僧持　堂床八代寺跡寺と云本尊
再興九天四劈と堂有と雖みと及破損と雖金ものと
安置ありと云
若一王子　末社　社地三代
八幡　荒田社地一代　山城社地六代
権現　ヤカシロ　社地一代
雑才天　中内
恵堂　金ものと
虚空蔵堂　隆宝寺　會九月十三日堂床二代普隆宝寺本
尊と云

金ものと寺　真言宗
本尊
古城
山北　忱竹修理太夫居之
山川　上村五郎九衛門居之
五郎左衛門父墓有
天正十六年八月十三日五子敬白
石碑面開叟浄心禅定門
仁井田権現　仁井田　勘孔十月初卯日別當恵日寺社地五代
昔ハ大社と雖今地下作事ニて
天忍穂別神社　石祠　式社之一也

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

石舟社鰐口
應永三十二年
依伯光廣
此鰐口モト吉良
川阿弥陀堂ノ
鰐口也

寛弘九年十九日社地十五代別帝息日寺
式社考曰舊事記曰天照大神太子天忍穗別尊娶高産
靈尊女栲幡千千姫一誕生饒速日尊饒速日尊乘天磐船一
而翔行於大虚空天降於虚空見日本國矣姓氏録曰
物部姓、神饒速日命六世孫伊賀色雄命之後也類
聚國史曰平城天皇大同五年正月土佐國香美郡人物
部文連全敷女、授少初位上全敷女、同郡物部鏡連
家主之妻也重遠桜天忍穗別尊為物部姓、本源物
部、為當郡人之大姓當郡齊忍穗別尊理當然矣大忍
里、庄山川村有石舟明神古老傳為下乘石舟一天降上焉

山川、物部姓代々傳領地也當社棟札正和四年乙卯曰
願主物部速近天正六年戊寅曰檀那末延萬助物部某
祀物部祖神饒速日命也矣其神體玉石一枚靈鏡一
面皆古代物也其有兩座者蓋併鎮火、神天忍穗別命
歟丈式内、社湮蝕埋沒蓋非一日其偶顯者亦俗称不合
舊式者多矣畿甸尚然況邊鄙乎若本郡天忍穗別神
社按檢部内未得的名今以舊記及姓系推之知石舟
社近之矣謹録以俟後人訂正焉

文珠堂 ヨレウク堂家六代菅大谷寺有玉寺本當
ヒ云

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

梯方大明神　大宮　參礼九月十三日社北五代別当恵日寺

寺

牛頭天王　天王　參九月十九日社北二代別当恵日寺

薬師堂　ヨシヒロ　堂席五代

聖観音堂　荒木谷　會四月十八日普福方寺ト云有寺ノ由

布多ノ由

若宮大明神　寺ノ上　參礼九月十八日社家二代ヲ別当恵日寺

三方荒神　細川テンフリテン　社北三代

八幡　古城山　參八月十五日社北二代

薬師堂　能満寺　會四月十二日普頭城ヲ本ヲノ由

仏之

山神　井ノ表

オイゲ明神　カミノ内　コヤノ内

杉尾明神　中ノ川

牛頭天王　西信村　神主宮ノ苑前

馬頭観音堂　万福寺　昔万福寺別寺ニ由

観音堂　万福寺ノ庵　如意輪観音

毘沙門堂　万福寺ノ庵

鷹羽大明神　中川

仁井田大明神　仁井田

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

三寶荒神　和田

傳燈寺　真言宗　旧名大圓寺宝暦年中改傳燈寺

本尊　鰐口　大忌庄大圓寺本願勢俊時文明十九年
七月三日大旦那五郎衛門敬白

十二所權現　谷寺

神宮　長谷寺支配　谷寺ハ羽尾村牧寺ナラン カ

東川村　大忌之庄　今日福万村　地　六百三十六石一斗

手結浦　庄法庄之内　古文

大忌庄東川内　小松寺入ト

芝花一円寺領　古文ニ依ル

如件

寛平二年二月一日　和雲守　時忠

若一王子　宮本ニ　九月九日　和雲寺神ヲ
宮川高丸　棟札古文叢　廿丁七十六丁

石体六地藏　新田村ニ

薬師堂　的場　堂床ニ代　昔ハ泉寺持
阿弥陀薬師堂　昔泉寺持

古城　福万　福万孫九衛門居之　一説佐井右京

八幡　ニハ屋敷　今社ヲシ

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

薬師堂　寺屋敷
阿弥陀堂　末清水西福寺　堂屋敷
牛頭天王　末清村　堂屋敷九月廿日祇地祭
王大神　末清村小屋　祭礼九月十日祇地祭
山神　末清村祇薗
比藏堂　末清村堂
巌島大明神　末清ヤヤ
十二所権現　末清ニヤノ古
三方荒神　別役村ミヤケ表　祭礼九月十日祇地祭神主来
川均ヲ天

若宮大明神　日
大宮大明神　別役村ホトノ
牛頭天王　別役村秋ヤ
大明神　別役村法山
勢至堂　別役村ヲ称寺
仁井田大明神　別役村仁井田
笠塚明神　別役村法谷
仁井田大明神　羽尾村仲田ヲ山　祭九月廿日神主八ヲ天
三体妙見　羽尾村スケ深
八テノ御崎　羽尾村ヲノ森

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

平等院牧寺　禅宗
未詳
二王門
鐘銘曰奉鋳土洲大忍庄真牧山長谷禅寺椎鐘文明三
辛卯年二月日願主恒光物可宗玄蕃進沙門奄賢大
工秀守住持比丘
阿弥陀堂　山下方　堂床板檜會日正月廿四日七月十六日
集詣群集す
別役三吉命ハ別役村五百二十石ヲ領す其子孫當村ニ在
トソ

土佐遺語曰大忍庄東別役村御崎社棟札云天文十七
年願主在原義重矣重遠按別役三吉郎代々傳領之在
原蓋其姓也
久江村　大忍之庄　地三十四石五斗四升
仁井田権現　大庄屋　祭九月十五日社地六代地下氏神神主
八右夫
地蔵堂　ヲハゴヘ　堂床六代
日知権現　東庄屋
姥権現　ハウラ
十二所権現　大庄屋

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

夷權現　二ツ岩
名松ヶ明神　山神岩
十三佛妙見　仁井田村仁井田町　祭十一月初申社地二代
山神
大工ノ王子　（ツイ町
観音堂　谷西裏　會日正月十八日
仁井田大明神　仁井田
西川村　大忍之庄　地七百五十八石六斗一舛三合
牛頭天王　祭六月廿六日社地十六代神主吉吏
棟札　慶長十一丙午年正月廿五日　新造奉八王子本願正

廣与兵衛惣氏子
大明神　猪子　祭十月八日社地六代神主川村石見
山神　出ル羽
五山　秋本　祭八月廿八日社地十代神主川村石見
地藏藥師觀音堂　玉久　會正月十八日　堂床弐代
神毋　玉名
日知權現　宮中　宮床二代
藥師堂　出ル羽　堂床二代會九月十八日
逆川村　大忍之庄　中西川　地百十七石一斗四舛
君士方大明神　下谷　祭九月十九日前山北修驗吉社人

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

川村石見

棟札　正徳元辛卯年極月十一日建立士方本願木藤丹左衛門
神主川村伊太由
享保二十乙卯年九月廿三日建立君士方神主川村十太夫西川
村大庄屋佐竹弥七郎
阿梨宮大明神　大宮表　祭九月十八日神主川村石見宮
宗七代
地藏堂　成就寺
正観音堂　堂守ノ上會二月八日
大明神精舎　祭九月廿日社北五代

仙権現　約宗
古城
中西川　別後三吉殿居之
延清　延清總左衛門居之
爾興山神　戸枚奥祭礼九月十九日
観音堂　延清古城跡
薬師堂　泉福寺會二月八日
岩見村　大悉之庄　奥西川　地五十四石一斗七升三合
仙権現　初別後　祭九月十八日宮家十代社僧寺多市五代
神主吉夫

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

社稷神天
仁井田大明神　大谷　祭九月十九日　宮床四代
地藏堂　文代會正月廿四日　宮床二代古谷ヨ支配
有宮大明神　古名　祭九月十九日
古城
奥西川　別役左衛門居之
正延　正延與兵衛居之
秦氏之時山崎勘解由左衛門居之
仁井田權現　峠　祭九月廿日　社地十代
仙權現　古名　宮床八代
釵權現　文代　祭九月九日　神主石見
山神　カツラサカ谷　トーロ　栗ノ木
牛王大明神
七社大明神　七社　大谷
地藏堂　別役　芳彦
地藏堂　トモ省　祭十一月十四日　宮床三代會二月八日
牛王仙權現
表古文
八大龍王　茂ノ谷　祭九月十五日　宮床二代山伏桔山
仁井田權現　十タカツ

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6

ガラス使用

三体堂　アマ土　堂床弐代
木船大明神　ト、ロ　祭十一月朔日
福山大明神　トナモト
地蔵堂　乃麦　會正月十四日
優婆神　岩あス
弓矢八幡　幸あス
薬師堂　ち谷　堂床弐代
八幡
仙権現
龍井田山、城　ロタ谷

土居村　香宗之内　地七百十九石三斗七升七合
立仙大明神　伊宮床
三代實録曰清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授二土佐國
従五位上立山神正五位下大谷神従五位下一
祭九月朔日又六月八月十一月別当中ノ村興雲寺神主土居
村住吉氏神故欠八反余地拾
悔ニ者ヲ今社ノ北ニ西浜ニ有村東ヲ産砂
神ヲ氏社ニ十代土居村ヨリ移地百姓ノ工物
諸役ヲ百姓勤候面四反三十
七代ヨリ宮林長四拾六
間西長四十三間南ノ三反百

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

大將軍　境内
地藏　境内
藥師　境内
藏ノ神　荒神　社地十弐代香宗我部氏寄附ノ地
格護ノ有
龍珠山宝鏡寺　禅宗瑞應寺末
本尊
祇園社　境内ノ有
香宗我部親氏石碑　堂座之銘
東清和天六孫王多田満中武田之朝臣親氏公
西於高麗國陣中御他界也
南寅奉彫造石塔一牌以為月渓芳心公頂漸越格也畢竟
面如何　良文公湘之南潭之北中有黄金充一囲于時文禄元壬
辰年中冬二十四日　棄誌之　敬白
香宗我部親泰ハ元親ノ弟文禄二年癸巳十二月廿一日役ニ朝
鮮於二長門下関一病卒ス年二十一　明彭孤山有二當寺一牌一
愛宕大権現　立仙宮古地
八幡　土居屋敷　社地七代
神母　スミヤシキ
赤岡村　香宗之内　地百八十四石七斗七合

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

寛政三記、六砂畠貳丁八反貳十代　但御免許地畠并屋敷
○浦家高百十四軒　浦人郷人入交住居
○人高七百七十九人内四百三十人男三百六十六人女
○船三十艘内市艘三小船一生魚船二
地挽網船五浦人同一々人同四同村五タ同四古川村同十吉原村○網
廿四張同地挽網五浦人同一郷人同四同村五タ同四古川五タ同十吉原村
○浦境東ハ岸本境ヨリ西ハ古川濱境迄東西十一丁南北五丁半但赤岡川尻
ヨリ物部川尻迄東西十二丁余灘掛リ。塩釜十九釜御貢物五匁宛

神母　西濱

薬師堂　西濱　与楽寺支配

萩原山教懂院與楽寺　真言宗醍醐　報恩院末

本尊　寺領十五石二斗七合

聖大権現

小宮　中濱　立仙大明神御旅宮両社宮床五代

与楽寺鐘延享元子年四月鋳之

小宮　中濱　須留田八幡ハ旅宮ノ前ニ社人住ス

正福寺　真言宗

本尊

金剛山持宝院阿弥陀寺　真言宗

本尊

赤岡町

御制札場

薬師堂　延宝年中海中ヨリ出現ス由

持寶坊　与楽寺末寺

道心庵　元禄六酉年本尊造之

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

野神　江見浦　ヲノカミ　無社二本松有之小牛馬宰掛祭ル
ところ

恵美須　夷堂　祭十一月廿日
并市天　別当持宝坊
恵美須大明神　古宮浦　祭礼十一月二日渡会儀祭礼被
仰付候古文書并神楽有
分一役所
御高札場
御米蔵四軒
須留田村　香宗之内　地四百二石四斗二升

八幡宮　スルダ山　祭礼八月十五日
文社地十代地投帳ニ宮床と有之神田三反代本田二物地下
立詰宮林東西十丈百南北拾弐間
息引神　ヒソコテン
野神　久木山　小社や牛馬宰掛祭ル
中之村　香宗之内　和名抄曽我　地六百五十八石七斗三合
曽我明神　上曽我　小社社地七代三歩無二物
続日本紀曰清和天皇貞観十年十二月廿一日庚戌無位宗我
神授従五位下
昔古社領地文明十代地投帳ニ前例年貢米村松重房発ス云

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

而之者合祭礼之事

興雲寺　真言宗

本尊

藥師堂　境内

鰐口銘　此鰐口今江ノ口村熊野權現社ニアリ

土左郡大高坂郷小津村

土州

宮

賛

津

御

小

前

鰐

口　于時文明六年甲午八月一日

天将　茅ノ尓　小社

大将軍　土居屋敷　社地五代

日御子　垣屋敷　南

神母　垣屋敷　社地三代即歩

若一王子　北之屋敷　祭礼九月九日社家市三代五歩社領

右三社即於代即歩地於時ニ有

古城

従往古香宗我部氏世々居之近来出羽守秀義同左近

太史親泰

或曰香曽我部出羽守秀義八清和天皇苗裔甲斐源氏武田二氏族也香我部と云ふの度又香宗我と云ハ是亦香宗又香宗我部と称を和名抄ニ香美郡宗我郷あり古史祝部と云ふ者八法師し中山田小隅と唱へしふの我部ハ嬰く中山田左馬介と云又後代の家臣まを此田氏為真武器本伊賀下国九郎左衛門小村新左衛門久甫内芳盛此内ニ助兵衛と云者也

新宮村　香宗之内　地百八十一石貳斗七合

新宮権現　新宮山　祭九月十五日ハ南奥雲寺社地ニ代社伝十代地形ニ神田ハ消ル

社地

此新宮権現屋敷と地検帳ニ有明市村支配新宮明旅和社ハ云ふ

観音堂　堂床九尺ニ十尺

小堂

昔ハ宗長福寺旨元孫華中住持迂化ニ節退轄小堂ハ此ニ由

中山田村　香宗之内　地九十三石五斗二舛

辨才天　クレイシ　厨子ヲ入ル四面

神母　瓦葺

八幡　土居瓦葺　祭礼八月朔日

棟札　天正四年丙子香宗氏泰円千菊丸池内真武北村中勢五秀浪

兎田村　香宗之内　地二百七石五斗二舛

八幡宮　八幡山　祭礼八月十一日　御供金剛寺社地氏宮

林宮ノ前横手百社　柿中三有此指略ス社仏四指右ノ

計六外七名

権現　八幡東　小社

明神　八幡ノ脇　小社

弁財天　弁才天　スケヒサ

山神

薬師堂　西福寺　會日九月十八日

神母　光久

権現　枝谷

山神　大谷口

薬師堂　医王院　堂庵弐ヶ所　會九月十二日

沖権現　松木ノ後　社地二代

権現　枝谷

山神　大谷口

薬師堂　医王院　堂庵弐ヶ所　會九月十二日

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6

ガラス使用

金剛寺　真言宗　本樂寺末
冨家村　香宗之内　地四百九十七石二斗四升七合
羽馬王子權現　ハバ　祭礼九月九日別当金剛寺持社地三
代社領五石七斗四升地指出ニ有
築地權現　築地　祭礼九月九日別当金剛寺持地指出
ニ社地之代社領三石四斗六升七合と有
釋迦堂　築地
愛染明王　祕佛
權現　祕佛　祭礼九月九日別当金剛寺ゟ社地之
代社領砂石ゟ外ニ米七合

八幡　宇西
古城　冨家刑部居之
妙見　妙見　社地之代社領壱石五斗地指出
地藏
古川村　香宗之内　地四百五石一斗八升三合
八幡宮　八幡山　祭礼八月十一日別当福寺社人供之
社地六代社領米代
爭ヶ天　クロクロ山　小社
吾原村　香宗之内　地八百五十二石八斗三合
大八幡　カシテン　祭礼八月三日別当徳善寺神主源吉支

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

社地於代田地卅十五代木田二物地下之智
西徳世八幡宮　宮内屋敷　参礼八月十四日於御修善寺
社地十代田地廿二代四ツ　地下之物之名
地蔵堂　元亀　會日四月廿四日　堂家七代御善寺
文祐
住吉大明神　祭礼九月十音於御修善寺社地十代
田地於代杉山宮於御寄物之所
神母　イケ少社社地五代
古城　慶長十九年大阪陣ノ時之御
國　丁野帯刀居之

古城八幡　土居山社田地廿七代之ヲ貢物之
勝善寺　真言宗
本尊
西方恵美須　浜
牛阪天王　阪久　社地二代
新八幡　宮田
長宗我部兼序墓　西未ノ方　里人及墓之云
久枝村　香宗之内　地六百五十五石三合
大湊　土佐日記
思月のあかつきなれば川面もうすくさやけき

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

とや九日そのつてかありこのようなほのそうり城
おさんとそこそこてそうり　ワ池
或人云大湊ゟ小八大岩ゟ南へ境川ゟも秋田門之西
へ神洲（しんしう）下ゟ田村の南往吉と伊郡境之堺ゟ
て今梅ふ久枝の宮（もり）ゟ高山城迄そうり小八大岩　境ゟ峯ゟ枝
仲ノ俗迫（はざま）ゟ入来ル境川のゟ川流や　一豊公ゟ入ゟ近流
形ゟ有ル萬長年中大変ふ流れ此築田地ゟいす成
往古の考
三神　天満天神　神名不知　宝島山　多孔八月ゟお前宝
八幡
猿渡社人久古史往古地ゟ河八文西ゟ代四ゟ京八幡

鎮地ゟ千天満社と地ゟ根ゟ有ル社地十代地ゟ根社林東
西九千百南小又十間社八山林ノ中ゟ有田地ゟ文八代立ゟ
本田貢物ゟ都内ゟ拾七代ゟ久ゟ七ロデン　拾四代キウシデン　三
拾六代ゟ山ノ二、拾六代（ゆイテウデン）　八代（トウコン）ゟ拾八代ゟ内
棟札　天文五年丙申菊月ゟ九日上棟上蒼八幡宮大旦那
藤原元道奉行者藤原助繁
文禄二年癸巳本願久甫内勞威下司九帝左衛門忠重
新建立棟上八幡宮大旦那奉元親勧進者右近太夫親康
慶長十九年甲寅八月初九日上蒼八幡宮本願下司九郎左エ門
空岡山福樂寺室積坊　真言宗正真寺末

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

本尊

山神　太境内

正八幡宮　宮居山　別当宝珠坊社人久古支

若宮　八幡社

牛頭天王　天王　社地共代

神母　小社

西宮　俟　小社

市戸天　川端

前濱村　地千四百十七石八斗八升

伊都多大明神　イトタ　祭八月十六日別当正眞寺社人

鎮口　於土州安芸郡和食庄大日寺常住長禄二年戊子卯月五日鏡主尼妙帝敬白

同土州長岡郡之内濱改田村住人濱田清兵衛　元禄四年未八月十六日

也人社仏寺多四拾九代寺歩多社地十六代田地四拾七代

寺歩社林東西七十歩南北四十歩

棟札大永捌稔　内子大願師竟善竟惠

天文十八年己酉本願主三郎左エ門尉道吉新兵衛尉住信

周防守守吉上田村正次

文禄七年甲子吉良親貞親實代官藤崎頼久　出入原道吉

天正元年癸酉大旦那峯元親同平親貞千屋三郎左衛門

菅原貞竟同権助菅原勝久

慶長八癸卯年十二月十三日再興上菅伊都多大明神御宝殿

本願細井五郎右衛門古市與次右エ門

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6　　ガラス使用

裏針鉄具足一領伊勢益太由源十郎同鍋一枚墨壺
儀正奥寺住持尭善尭恵
慶長十二年丁未八月吉日建立伊都多大明神横殿正奥寺
尭善求願田中傳左ヶ門
若宮　太社林　地拾七社仏二反市五代余社地東西十九間
南北求四間　但五百六拾八石ニ内ニ社地ノ杣林
権現　別養寺　小社社地三代社仏八反四十七代ト地拾帳
二有
大日堂　堂奈良代有西養寺ト云有近郷ニ年暦ヲ知
西宮大明神　渓ノ窪　社地三代

什物
唐筆画曼荼羅金剛界ノ二幅
同涅槃像一幅
右三幅
元親公寄附

鰐口
文明十七年八月
十五日　詠

半鐘
土州前濱正奥寺什物為或
運長久ヲ祈繁栄願主嶋村
清蔵同又左衛
延享二乙丑十月
吉日廿二葉法
印瑞長

明神　別在東　小社宮奈良二代
南光山理智蔵院正奥寺　真言宗　醍醐報恩寺末
木尊阿弥陀　境内　小社
天満宮　境内　小社
土佐田村下ノ内正奥寺院主職　兼僧由幸
合　廿四丁余十里
土佐　北東　高岡　此間九里
壱町
八丈　西ノ出入
右件ノ條田者幸等多年作来ル康安元年　出入市四日大塩ノ
時依令移失為後代証人ヲ

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

加茂形者也仍和銅代年陵之此社

寛永参年二月九日

妙香寺

昆沙門　弐尺坊　共座一代　昔武尺坊と云寺昔ハ高野年届之知

往吉　小社

龍王　小社

地蔵堂　地蔵堂寺中

観音堂　観音寺　寺中ハ堂家共代

八幡　小社

下嶋村　地三百七十四石五斗

十八所大明神　大八石　多孔九月八日宝永四年大地ゝ震

社領矢但中ニ十八石権現と号来得云事録二年四記ゝ

十八所大明神ハ社伝ニ云四十代帝ゝ

有宮家或代ゝ

阿弥陀薬師虚空蔵堂　十八石ノ

牛頭天王　守尾

神母　中元　小中ニ九

上田村　和名抄多魚良　地千七百九十三石七升七合

伊都多大明神　新田畑明　多礼八月十六日社人理吉支
宮家支六代本田吉支四郎八代訓分寛永十五戊寅年
前浜ヶ大宮上田村ヶ内後宮ヘ勧請寛文九丁酉年今
ヶ地ヘ移ス

弁財天　後宮秀　祭礼九月十五日社家五代田地一反本田
上田村深七多附

古城　往古守護代細川遠江守頼益同次部少輔満益同民
部少輔持益同遠江守勝益世々之官舎今細勝寺是也

正八幡宮　ツメ屋敷　多礼九月十五日社家三代訓分細川
氏城地勧請

天高山細勝寺　細川官舎跡　法華宗妙国寺末

末尊三宝日蓮大士

当寺ヶ当所御祈祷村妙国寺像ヲ移シ祀テ仏見
観音堂　境内　西覚宮　納経墨跡

若宮　東門　小社

八幡　ニイダイ屋敷

若一山水正寺　法華宗妙国寺末

本尊三宝日蓮大士

おゝ多神　先年屋敷　先年大阪ヶ宮相支度お
多神社ヘ一社ヶ当ヶ

国立国会図書館　タイトル『南路志』 請求記号 寅-6
ガラス使用

地藏堂

藥師堂

天王山藏福寺　法華宗妙国寺末

本尊三宝日蓮大士

神母林　笠松　俗林ノ説ニ笠石昔亘リ二尺五寸許ノ湯ニ笠石ヲ形石ヲ象

石車笠ニ形石ヲ象

諸王権現　上佐村ニコニコ内外　祭礼九月九日田地十代貢物立

住吉大明神　下田村住吉屋敷ニ小社

神母　下田村住吉

田村山極楽院本堂寺　真言宗正真寺末

本尊観音阿弥陀地藏

龍王宮　一ノ坂　小社

藥師堂　下田村

八幡宮　下田村ツメ屋敷

戌亥八幡　下田村土居屋敷

明神　下田村上免

藥師堂　下田村江頃ち　宝永四年大潮ニ流失延享四年再

観音堂　日招

神母　下田村下窪　小社

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用

千箭古城　下田村　千屋　紋た夫居之

海堂社　月

苧堂觀音　安万侶作

物部村　和名抄モ乃倍　地七百三十一石七斗七升

類聚國史曰大同五年正月廿七依国香美郡物部文連全敷女授少初位上全敷女物部鏡連家主之後也彼物部氏數代此地鎮是神魂命五世孫天道根命之後也姓氏録云物部姓ハ神饒速日命六世孫伊賀哉色雄命之後也矣大忍庄山川村ニ有石舟明神古老傳為乘石舟天降ト馬然レハ神代ノ領地也鏡郡又鏡野鏡川ト云モ鏡ノ連ノ名ニ據テ称拳スルモノ也

西宮權現　木ノ下　祭礼九月九日別当地蔵院社地南小

十一面觀音　天永東西拾壹百地廿代五歩寄物地中立給

辨才天　清水　祭礼九月四日社地南小祠間一尺東西弐

間

笠松

笠松有之昔ハ笠松石有之神母ニ乗テ一粒伴ト云傳上田村ニ字ニ

加陀山長福寺地藏院　真言宗正奥寺末　此昔百々越前菩提寺

本尊地藏

辨才天　杤ノ木地蔵院境内

国立国会図書館　タイトル『南路志』 請求記号 寅-6

ガラス使用

神母　　美面　社地南北六間東西六間

牛頭天王　中段　社地南北十間東西七間

八幡山正壽院真福寺　真言宗正眞寺末

本尊地藏

疫賊天　境内

金田寺　真言宗正眞寺末

本尊観音

上岡村　物部之内　地百八十八石一斗

八幡宮　上ル　參礼八月十六日別當寺福寺社人壱五人

當社地十代田地壱反廿代四畝歩本田之物立留宮林有

此六十八間東西五十六間

阿弥陀堂　八幡ノ脇

立田村　物部之内　地九百八十六石二斗一升三合

三所大將軍　右單林

八幡宮　徳久氏古城内

古城　土居城　徳久三郎左ヱ門居之

観音堂　弘成寺支配　會日九月十八日參福寺支配

遍照山延壽院藏福寺　真言宗

本尊　寺領一石五斗

牛頭天王　堺内源村氏神林　參礼九月九日　社地十三代之内

国立国会図書館　タイトル『南路志』 請求記号 寅-6
ガラス使用

若宮　小社
金田寺　云真寺末
堀内村　岩村之内　地三百六十四石三斗二升三合
牛頭天王　東天王　小社祭六月七日
才之神　方神
神母　堀内
藏福村　岩村之内　地九十石三斗四升七合
三躰明神　大名祭礼九月九日当寺山寺社北五代
社領五代
弁財天
小社

神母　杉屋敷　小社
經田村　岩村之内　地二百十九石九斗一升七合
福田村　和名抄伊波乎良　岩村之内　地四百二石九斗七升七合
八幡宮　城ノ為古城跡　祭礼八月十五日別当孝山寺宮床五代
古城　立田甚左衛門居之
川原大明神　松波村氏宮
金地村　岩村之内　地四百七十二石二斗三合
八幡宮　カハラケ屋敷　社
神母　ソノ近　祠五代

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

八幡　城
弁才天　土居
古城

包来村　岩村之内　地四百石二斗三合
神明宮　包来
阿弥陀　堂屋敷　堂床二代
道心菴

松本村　岩村之内　地二百五十七石三斗七舛三合
八幡宮　松本　小社　宮床一代五歩　本田四十八代四歩
貢物立留
神明宮　亜川　小社　伊勢一万度被勧請

徳松村　岩村之内　地二百五十七石二斗五舛　今曰来次村
當蓮花大明神　土居ノ東　地面六代四歩古ノ宮床也
貞享年中西ノ宮社ヘ迁ス由
妙見大明神　大河　古宮床ヘ
西宮大明神　大和祭九月十五日

當蓮花大明神
妙見大明神社地十

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

六代

辨才天　茶山　社地一代

神通寺村　岩村之内　地二百五十一石二升一合

三所大將軍　西ノ宮　左若一王子　右天滿天神　祭礼九月九日

別当孝山寺社地十三代社領八代宮家一反一代四歩

藥師堂　會九月十二日　孝山寺城雲巖寺と云し時し本尊

寺領壱石四斗四升

靈通山覺性院孝山寺　真言宗　旧名靈巖寺

觀音堂　境内　等身四代

津野権現　境内　祭礼九月廿九日

津野孫次郎親忠牌主

高山宗華居士　慶長五庚子舎九月晦日

或云長宗我部盛親ハ南宮山の合戦よ討負て土佐へ逃れけるの初筆家の恩光城崇人の為大坂より立石助左衛校山新左衛城井伊家老改へきし報入るに立岡

仲埜屋薗城討手に来しを田薗仲之進
てう討とて埜へ攻城きしは度大坂の一条にて評定す
評中あり急書届有若年とて
安き此時こそ物もう敵を勢おう引見し帝国さ
してう急う城路ある休息のおて先発村
の吉澤うへ入うく数て内薗仲
押寄せ土佐う後仕うて為手
の落去人う向てそ味うれハ親忠ハ思掛おく
何の料う係く親忠ハ城たそうう
うそ已れ安積やそ後うて生年二十九歳うて

按十文字に拵加えへハ久村源兵衛
云事し已ら狗と実正の死骸うよりて
うる津野家十八代うて現存す津野家傳ハ元親卿
の條うを考ふ

金地神社　祭事代主命一坐三代實録曰貞觀八年八月七日
己卯授二正五位上神奈地神従五位下

深淵村　地四百五十一石一升三合
和名抄布加不知

神母　牛ノ木　社地即代

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

若宮八幡　東屋敷　社家武代
山神　矢筈谷
八幡　お菖蒲山つ　お菖蒲谷
文珠堂　矢筈山　学庵云
云伝古石碑ニ文珠菩薩像彫刻ス本村ニ
ありし地名ニ八大文殊等ハ
就テ伊弉弥ノ八父ノ菩提ノ為ニ剣ヲ作ル
形象ノ如クニし母氏ヲ図ル郡ニ小ノ札ハ有ル
ヨシ
地蔵堂　矢筈山

深淵神社　郷市村　十郎市村
深淵寺　式社之一也
祭八月十日例祭大ニ賑地廿代目安徳天皇
ニ有テ後十孫ヲ以テ迄々
式社考曰古事記ニ曰速須佐之男命生ニ八嶋士奴美ノ
神一八嶋神生ニ布波能母遅久奴須奴神一布波神生ニ深
淵ノ水夜礼花神一度會氏曰此與ニ大已貴命一異名同神
也重遠按此社今在ニ野市一里人呼為ニ十禅寺一舊祠
曾有ニ深淵村一地廣樹老尤可凝信寛永中前國宰
大ニ壑ニ辟鏡野灌漑之利被數十町於是河水失ニ古
道數流合併為ニ一直洪水懐裏社地為所潰渚民

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

木柱巌今猶在河底見在小社四十年前里民徒
造之云

野宮　里宮　社北十六代大谷村ノ西野中ニ有久支基源
ヲ祀ル社ヲ云フ〻ニ伝ヲ失ヒ
松枝浦ト云フ〻里宮ト唱ル云伝ヘ有リ
今土系深ク古墳ノ成ヲ再掘シテ社ヲ建ル数ヲ知ラス九
月十八日

東鏡曰養和二年壬寅九月廿五日癸巳故小松内府家
人蓮池権守云件之一族等馳向之處於ニ野宮邊一
希義被レ誅之由ヲ聞空ク以帰去　此文妄由上ノ九丁ニ見タリ
故カ、ニ畧ス

山王権現　富士山　安元九月十五日別当寺東修善寺
人皇廿五代

愛宕社　本社ノ東例

大将軍　本社ノ西例

天神社　東也　社床十五代

摩利支天　下井

兎堂　五町

野神　三ヶ所ニ有　下井　十
下井八丁　浄寺

八幡　上屋敷

牛頭天王　当社　別当修善寺

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6
ガラス使用

仁王島（ニヲ）　昔志物祢川をこ村有法名の条今此地へ移す　按ずに父老の仁王つ添ふ一本松の下古墳有しと云ふ

宗林寺村　深淵郷之内　地二百三十八石一斗一升三合

山王権現　山王屋敷　条九月十三日当国大日寺社地三代

五歩

釈迦堂　會二月十五日

弁才天　山王屋敷

大日寺鈴口　下総國龍三勝　恵土州赤岡浦　田内彦八帰同　浦絹屋又兵衛　京都亀屋傳　悦冨海法印　覚入室永元年　年住持祐　覚代

法界山高照院大日寺　真言　五葉山末　宗

本尊大日如来　四尺五寸　行基作

中興行基菩薩

薬師堂　大柿木ニ彫有　弘法大師作

山王権現　境内社ニ天四面各壱尺作事

八幡　城屋敷

西佐古村　深淵郷之内　地五百八十石八斗三升三合

尾巻大明神　寺中

月見山北林院月輪寺　真言宗

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6

ガラス使用

木尊
昆沙門　境内
於木大明神　境内
王子權現　王子
古城　馬森　細川常陸居之

木尊
東佐古村　深淵之内郷　地五百四十六石一斗五舛三合
飛鳥大明神　土居　祭礼九月十四日別當勝ち社地
十五代

内野宮大明神　宮ノ下　祭礼九月十四日
山神　材ノ木谷　社地五代
神母　野田
弁才天　ヒナノ
地藏堂　通川村　會日九月廿四日
牛頭天王　土居　祭礼九月十九日別當山小惠日寺
社地五代　宮林東西十六百南小長弐十間
弁才天　土居　右社地
大谷村　深淵之内郷　地四百二十一石七斗七舛三合

大明神　百多田ノ西　祭礼九月十九日　社地南小記十間
東西十間宮林東西十六間南小三拾間
三代實録曰貞觀十二年三月五日丁巳授土左國從五位
上立山神ニ正五位下大谷ノ神ニ從五位下ヲ一
地藏堂　大光坊　會正月廿五日營床五代
山神　号社地　二代山下
権現　金剛童子
恵美須　次ノ木
八幡　土居　二ノ塀社地二代
仁井田大明神

古城　大谷左馬助居之
左馬助古山田の親族也父吉大谷出雲守大中臣道
直也吉川郡神谷ヨ住居せしの大永のころ香我美郡
佐古ノ六ヶ村城ヲ築て大谷ニ住居ス故ニ大谷ヲ氏と
ス

戸板島村　地百四十石四斗一
古名沖ノ島
地藏堂　大川筋
神母　大埇大明ノ西
観音堂　馬沢観音大日如来正徳四年中村勧請

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6
ガラス使用

安亭之郷有之

御岩権現　大姫大岩ニ御影多礼九月十四日

式曰岩積神社在山田郷岩積村一名御岩権現神
名未改矣三代實録曰光孝天皇元慶八年十月四日
辛卯授土左国正六位上堰笛石笛神並従五位下矣
今桜岩積與堰笛及石笛訓相通矣三代實録曰雖
大洪水不能浸大岩居民毎水災祭以避水難故
齊此霊以為神　上下畧

鏡川　名石
　　顕仲
　　夫木集
鏡川影ながらとや思ふらん清き瀬ごとに月の
　　宿れば

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

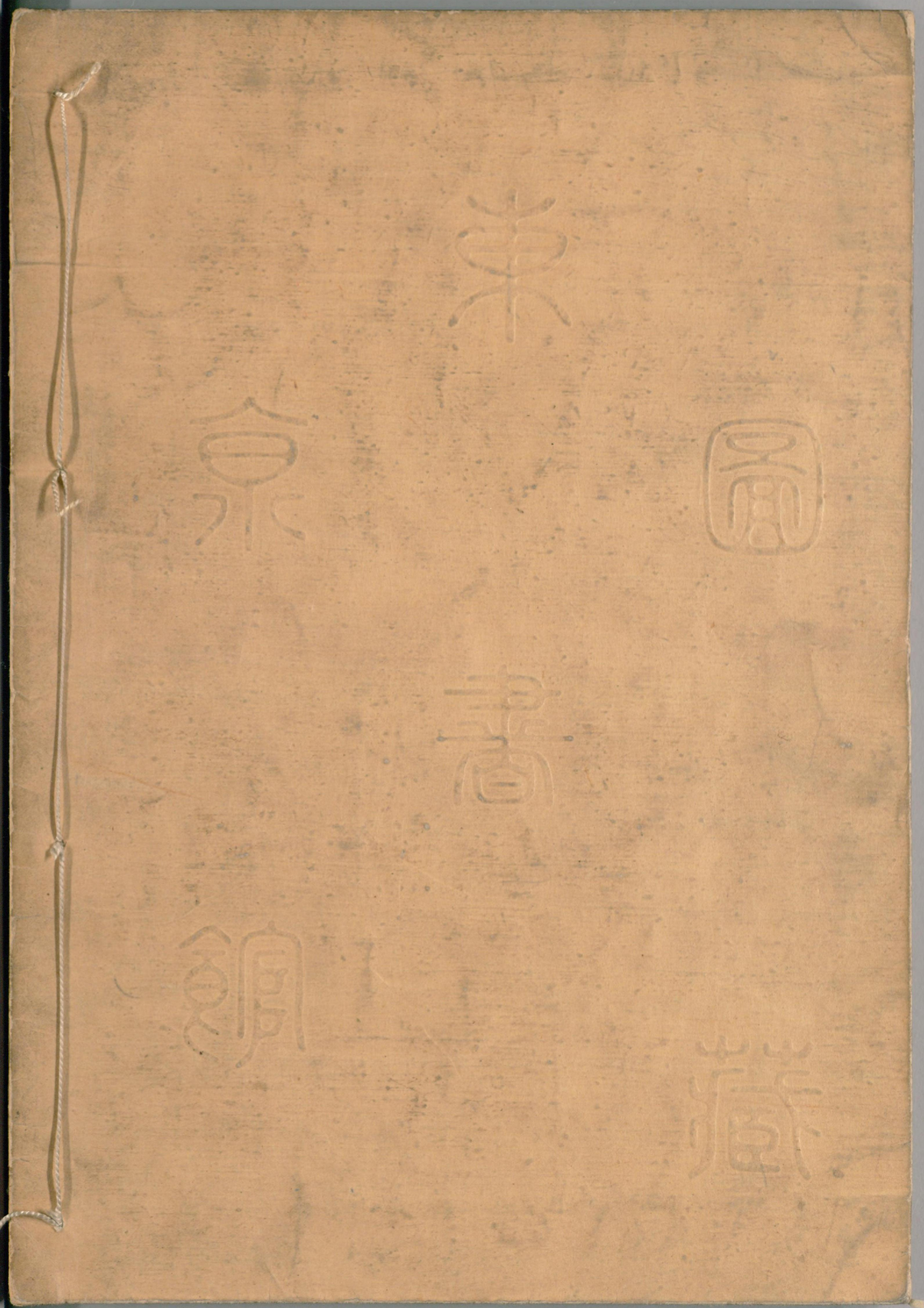
ガラス使用

特別
寅
138
6

南路志卷八終

国立国会図書館　タイトル『南路志』　請求記号 寅-6

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『南路志』　請求記号　寅-6

ガラス使用